豊栄広報

8月号 定価6円

発行所 新潟県北蒲原郡
豊栄町中央公民館

印刷所 下越出版社
新発田市寺町裏 電2134

今月の主要記事

○町の沿革と町名の由来
○合併後の町のうごきと展望
○町の日誌

町の沿革

豊栄町の歴史は、岡方台丘（高森薬師山）から、アイヌ族が使用したと思われる、石器、土器が出土することや、同地に祀る、薬師堂が大同年間に、また木崎台丘（浦ノ入部落）の切尾神社が和銅年間の創建であると伝えられることからして、相当古い年代から開発されたことがうかがわれます。

原住民族は天災や東方民族の東征により居住しなくなり、現住の祖先が居住するようになったのは約四千五百年前頃からと推測されています。

寛治三年の古絵図によると、この地方一帯は海でありました。阿賀野川をはじめとする数河川の運ぶ流砂の沖積により次第にひらけ鎌倉時代には薬師堂を中心に、相当繁栄した模様です。室町時代に入り戦乱と阿賀野川のはんらんとによる河状の変化により次第に衰微し、慶長三年（三百六十三年前）溝口新発田藩主の入封当時飯野村、長戸呂村、太子堂村、高森村を合せて九十一石であり、葛塚郷はほとんどが沼沢地でした。溝口侯が治水開田を奨励して阿賀野川の瀬替築堤を行った結果、元禄年間には岡方郷で戸数約四百戸を数えたといわれています。また元禄四年（二百七十年前）における独立部落は浦ノ入、切尾、居山、内島見、山飯野、平林、太子堂、長戸呂、三ツ屋、高森、大迎、黒飯野、堀田の記録があります。この頃福島潟周辺、すなわちのちの葛塚郷へは開墾のために来住する者はあったが依然として定住者はありませんでした。享保十五年（二百三十一年前）阿賀野川を松ケ崎で切落すことにより、福島潟を残して一帯が干上り急激にひらけて村落を形成しました。葛塚新田、太田興野、太田上興野、嘉山の四部落で約百戸を数えました。

宝暦四年葛塚郷は幕府の直領に属し水原代官所の所管となりました。

葛塚の名主遠藤七郎左エ門は地方住民のために市場の開設を計り、溝口侯に請願したが、新発田、水原のはげしい反対にあい、直接江戸幕府に請願して宝暦十一年（二百年前）にその許可を得これが基となって葛塚市街ができました。天保のころには商工業が盛んになり、当時亀田に集まる三条、白根、小須戸の物産の内、約七割は葛塚商人によって新発田、村上方面へ取次がれたといいます。

明治維新を経て明治二年越後府がおかれ、水原県に属し同四年新潟県となり、大小区制の下に二十二大区に属しました。明治十一年戸長役場制度を経て同二十一年町村制の施行となり、以後別掲の町村合併の変遷を経て昭和三十四年七月二十二日町村合併促進法による四カ町村の合併計画を完了し、ここに県内最大の町として誕生しました。

この間、新潟から船便（蒸気船）を利用して新発田、村上を経ての東北路の往還に陸路の要地として栄えた明治期の葛塚いんしん時代を峠に大正三年羽越線の開通に伴い約四十年間にわたり、沈退不振を続けました。昭和二十七年国有鉄道白新線新発田、葛塚間の一部開通を見、さらに昭和二十九年に新潟まで全通し、県都の衛星都市として将来を約束されるにいたり都市計画法による葛塚駅前土地区画整理と幹線街路計画の一期事業を終って地方小都市としての体制固めに邁進しています。特に最近新潟新工業港を建設する機運にあり、当町の北部を横断する一級国道七号線以北は新港の背面工場地域に予定され一躍重要性をおびるに至りました。

位置と地勢

当町は新潟県の北部阿賀野川の右岸下流部にあって、北及び西は新潟市に、東は新発田市ほか三カ村に、南は水原町ほか二カ村に接しています。

東西の最長は約一〇・二km、南北は約一二・七五kmで、面積は七六・三四平方kmです。

中心市街地の葛塚から、県都新潟市及び郡都新発田市へは国有鉄道白新線で三十分以内に、又両市へバスで四十分以内に達する好立地条件にあります。

この地方一帯は太古において浅水海湾であり、阿賀野川をはじめ裂カ嶽、五頭山等に発する数河川による流砂が沖積しその外に風波により砂丘が形成されたものであるといわれています。

地質は全域第四紀新層の沖積層であり、土性分布はおゝむね北部から東部にかけて砂土及び砂壌土であり、西部から南部は植壌土及び植土であって中央部から東南部は壌土となっています。

北部海岸にそった砂丘地帯にわずかに起伏が見られるほかは平坦で標高は二mから六mです。東部の最低湿地である、周囲約十kmの福島潟から、西部を流れる阿賀野川河口を結ぶ低地を新井郷川がゆるやかに流れています。

町村合併の変遷

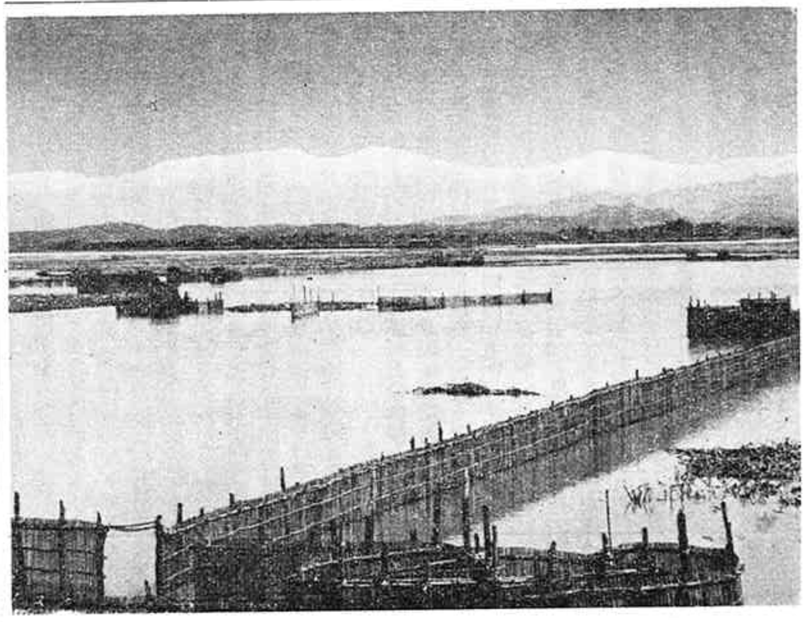
1、明治二十一年町村制施行
葛塚村、太田古屋村、嘉山村
島崎村、笹山村、島屋村、藤井村
越岡村、大久保村、三森村、長場村、亀浦村以上十二カ村が新設

2、明治三十四年十一月一日
葛塚村、太田古屋村、嘉山村（内沼大月地区を除く）以上三カ村が合併して葛塚町を新設
島崎村、笹山村、島屋村、藤井村（藤寄地区を除く）以上四カ村が合併して木崎村を新設
越岡村、大久保村、三森村以上三カ村が合併して岡方村を新設
長場村、亀浦村、嘉山村のうち内沼大月地区以上三カ村が合併して長浦村を新設

3、昭和三十年三月三十日
葛塚町、木崎村、岡方村の一町二カ村が合併して豊栄町を新設

4、昭和三十四年七月二十二日
長浦村を豊栄町に編入合併

5、昭和三十五年四月一日
浜浦地区分町して新潟市へ編入



飯豊連山と五頭連峰を水面にうつした早春の福島潟

町名の由来

むかしこの地方を豊田庄といいました。新しい耕地が生まれ、豊かな将来を約束されたものとしてその名は土地にふさわしいものでした。

幾年月かを経て開発は進み特に近年土地改良事業の施行によって豊かな農耕地として概ね完成し、いわゆる穀倉越後平野の中心となりました。こうした豊かな田園の中心にある豊栄町は白新線の開通国道七号線の整備などによって新しい文化都市として新興の意気あふれ、新潟市の衛星都市としての位置にあって、将来の繁栄が約束されています。

豊田庄として発足し、豊かな田園が完成し、その中心都市として栄えて行く姿をあらわし、豊栄町と決定したものです。

新町名選定委員
畠山 祐二
後藤 賢吉
松野又五郎

町章

町章は昭和三十四年七月長浦村の編入による合併完成を機に、町が新潟日報社の後援で全国から募集し、商業美術家亀倉雄策氏の手を経て定められたものです。応募数七百二十八点の中から中町の三村豊さんの作品が当選しました。

この町章は豊栄町の「トヨ」をヒシ（菱）形に図案化したものです。ヒシは福島潟の産物で、昔この地方一帯がヒシ藻に覆われた潟であったものを、人々の汗と努力で豊かな土地となったことを表徴しています。土地改良による整然たる農地と、道路網が整備され、交通の発達によって都市的形態となる町が端的に表現されています

出生	1日平均	1.5人
死亡	1日平均	0.7人
婚姻	1日平均	0.9件
人口密度	1平方キロ当り	429人
火災	1カ月平均	2.3件
警察官	町民976.9人に	1人
医師	町民963.4人に	1人
教員	中学生31人に	1人
	小学生33.7人に	1人
消防団員	4.4世帯に	1人
町職員	町民168人に	1人
家族	1世帯平均	6.2人
ラジオ	普及率	85.36%
テレビ	普及率	32.12%
新聞	1.04世帯に	1部
町税	町民1人当り	3,880円
国保税	加入者1人当り	1,041円
町債	町民1人当り	5,123円

豊栄小唄

作詞 山下 敏朗
作曲 市村 俊一
振付 吉永トシ子
マーキュリーレコード3727

五頭のヨー
五頭の山なみ笑顔で望み
町は繁昌の市が立つ
ホンニ繁昌の市が立つ
ヨイトコ豊栄トコサッサ

汗でヨー
汗で拓いた福島潟は
こがね波うつたから蔵
ホンニ波うつたから蔵
ヨイトコ豊栄トコサッサ

虫もヨー
虫もつかせず育てた梨の
味が自慢のお嫁入り
ホンニ自慢のお嫁入り
ヨイトコ豊栄トコサッサ

踊るヨー
踊る手拍子白新線の
響く汽笛を合の手に
ホンニ汽笛を合の手に
ヨイトコ豊栄トコサッサ

（昭和三十年七月新町建設記念行事として公募選定）

町の中心部本町通り

歓迎 全国レクリエーション大会

豊栄町・豊栄町教育委員会